

憲兵中隊、航空自衛隊と二国間関係を強化 374th SFS strengthens bilateral ties with Koku-Jieitai

August 12, 2020

By Machiko Arita,
374th Airlift Wing Public Affairs

8月4日から6日までの間、全国から集まった航空自衛隊の基地警備隊員が横田基地に集い、第374憲兵中隊との二国間訓練に参加した。

第374憲兵中隊は、警備能力の向上と米空軍と航空自衛隊との相互運用性を高めることを目的に、航空自衛隊員に3日間の航空機警備訓練コースを主催した。

同コースを通じ、航空自衛官たちは基本的な警備戦術、口頭柔道、飛行場監視、異文化理解、格闘術など、さまざまな技術を習得した。

「今回のコースで、特に重要視したのは、口頭柔道だ。基本的に口頭柔道とは、武器を使う代わりに言葉を使い、相手の自主的な随順を促し、言葉だけで状況を改善させる手法だ。全ての講義を終え、フライトラインで最後の実践的な訓練をシナリオを通して行った際、自衛官たちはコースの内容をよりよく理解できたと思う」と、第374憲兵中隊税関入国管理兼憲兵チームプログラムマネージャーの下士官監督官ディラン・クロスビー上級空兵は述べた。

クロスビー上級空兵は、今年1月に航空自衛隊防府基地で行われた二国間交流プログラムで初めて航空自衛隊員との交流を経験。今回の二国間訓練は、彼にとって2回目の機会となった。

「今回のような二国間訓練を行うことで、航空自衛隊と米空軍の双方がどのように任務を遂行しているか、より深く理解することを可能にし、お互いの警備能力を向上することにつながる。更に、トレーニングを共にする時間のなかで互いの文化を共有し合い、距離を縮め、絆を強めることができる。将来、共に任務を遂行することになった時には、必ずやこの経験を活かすことができるだろう」とクロスビー上級空兵は述べた。

パンデミック禍でさまざまな制限がある中での訓練だったが、調整を行うことで、受講するコースの内容には影響を出すことなく開催することができた。

「現在のコロナ禍の状況下で数々の制限がある中で、第374憲兵中隊が訓練の機会を設けてくれたことに心から感謝している。現在、私が勤務する基地警備教導隊は全国の航空自衛隊の基地に基地警備要領を教導する部隊です。ここで習得したことを部隊に持ち帰り、習得したスキルを参考に、航空自衛隊の警備にどう応用できるかを考えていきたい」と航空自衛隊、基地警備教導隊、警備員の白石 亮一等空尉は述べた。

3日間の訓練は、カウンターパートである航空自衛隊との関係をより一層深め、強化するのに役立ったであろう。

「今回のコースは初めての試みだったが、成功裏に終わった。航空自衛隊のメンバーは多くを学んだと思うし、我々自身も彼らから沢山のことを学んだ。自衛官たちはとても意欲的で、今回のような企画を行うにあたって、まさに我々が期待するように、積極的に質問してくれた。活発なコミュニケーションと今回の訓練を通じて、互いの理解が一層深まった」とクロスビー上級空兵は訓練を振り返った。

